

令和3年度（2021年度）

令和3年度温室効果ガス排出状況一覧表

活動の区分		単位	活動量	二酸化炭素(CO ₂)			メタン(CH ₄)			一酸化二窒素(N ₂ O)			ハイドロフルオロカーボン(HFC)			排出量 t-CO ₂
				排出係数 kg-CO ₂ /L, m ₃ , kWh, t	温暖化 係数	CO ₂ 換算値 kg-CO ₂	排出係数 kg-CH ₄ /t, km	温暖化 係数	CO ₂ 換算値 kg-CO ₂	排出係数 kg-N ₂ O /t, km	温暖化 係数	CO ₂ 換算値 kg-CO ₂	排出係数 kg-HFC /台	温暖化 係数	CO ₂ 換算値 kg-CO ₂	
①		②	③	④=①×②×③	⑤	⑥	⑦=①×⑤×⑥	⑧	⑨	⑩=①×⑧×⑨	⑪	⑫	⑬=①×⑪×⑫			
燃料の使用	ガソリン	L	271	2.32	1	629	—	—	—	—	—	—	—	—	1	
	灯油	L	56,718	2.49	1	141,228	—	—	—	—	—	—	—	—	141	
	軽油	L	64,268	2.58	1	165,811	—	—	—	—	—	—	—	—	166	
	都市ガス	m ³	3,370	2.16	1	7,279	—	—	—	—	—	—	—	—	7	
電気の使用	電力	kWh	620,890	0.215	1	133,491	—	—	—	—	—	—	—	—	133	
エネルギー起源二酸化炭素(CO ₂)				—	—	448,438	—	—	—	—	—	—	—	—	448	
一般廃棄物の焼却	廃プラスチック量 (合成繊維以外)	乾t	11,529	2,765	1	31,877,685	—	—	—	—	—	—	—	—	31,878	
非エネルギー起源二酸化炭素(CO ₂)				—	—	31,877,685	—	—	—	—	—	—	—	—	31,878	
一般廃棄物の焼却	全量	湿t	75,848	—	—	—	0.00095	25	1,801	0.056700	298	1,281,573	—	—	1,283	
車両の走行	普通・小型乗用車 (ガソリン)	km	2,302	—	—	—	0.000010	25	1	0.000029	298	20	—	—	0.0	
	軽貨物(ガソリン)	km	957	—	—	—	0.000011	25	0	0.000022	298	6	—	—	0.0	
	普通貨物(軽油)	km	72,538	—	—	—	0.000015	25	27	0.000014	298	303	—	—	0.3	
	特種用途車 (軽油)	km	22,470	—	—	—	0.000013	25	7	0.000025	298	167	—	—	0.2	
封入カーエアコンの使用		台	10	—	—	—	—	—	—	—	—	0.01	1,430	143	0.1	
メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン				—	—	—	メタン(CH ₄)		1,836	一酸化二窒素(N ₂ O)		1,282,069	ハイドロフルオロカーボン (HFC)		143	1,284
合 計																33,610

※ 活動量、CO2換算値は小数点未満四捨五入。排出量t-CO2は小数点第3位を四捨五入。

令和3年度（2021年度）

1 エネルギー起源CO₂の排出状況

エネルギー種	排出量 (t-CO ₂)	割合
灯油	141	31.5%
電力	133	29.8%
軽油	166	37.0%
都市ガス	7	1.6%
ガソリン	1	0.1%
合計（エネルギー起源CO ₂ 排出量）	448	100.0%

※四捨五入の端数処理の関係上、排出量の合計及び割合の合計が、各項目の合計と合わない場合がある。

【中間年度（令和7年度）及び目標年度（令和12年度）目標】 545t-CO₂以下

※基準年度（平成26年度）実績：1,040t-CO₂

2 対象ガス別の割合

温室効果ガスの種類	要因状況、排出活動等	排出量 (t-CO ₂)	割合
エネルギー起源 二酸化炭素（CO ₂ ）	化石燃料の燃焼 他人から供給された電気の使用	448	1.3%
非エネルギー起源 二酸化炭素（CO ₂ ）	廃プラスチック類の燃焼	31,878	94.8%
メタン（CH ₄ ）	一般廃棄物の燃焼 車両の走行	2	0.0%
一酸化二窒素（N ₂ O）	一般廃棄物の燃焼 車両の走行	1,282	3.8%
ハイドロフルオロカー ボン（HFC）	封入カーエアコンの使用	0.1	0.0%
合計（温室効果ガス総排出量）		33,610	100.0%

※四捨五入の端数処理の関係上、排出量の合計及び割合の合計が、各項目の合計と合わない場合がある。

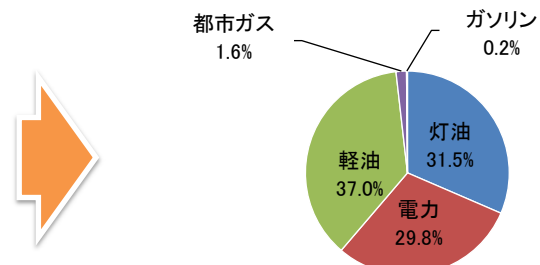
【中間年度（令和7年度）までに基準年度比4%削減】 31,089t-CO₂以下

【目標年度（令和12年度）までに基準年度比8%削減】 29,794t-CO₂以下

3 活動別CO₂排出割合

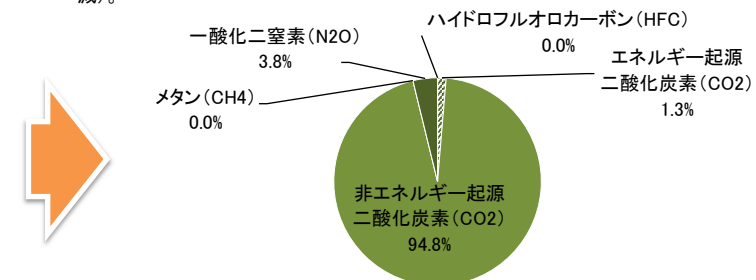
要因状況、排出活動等	排出量 (t-CO ₂)	割合
廃プラスチックの焼却	31,878	94.8%
廃棄物の焼却	1,283	3.8%
燃料の使用	315	0.9%
電気の使用	133	0.4%
車両の走行	1	0.0%
封入カーエアコンの使用	0.1	0.0%
合計	33,610	100.0%

※四捨五入の端数処理の関係上、排出量の合計及び割合の合計が、各項目の合計と合わない場合がある。



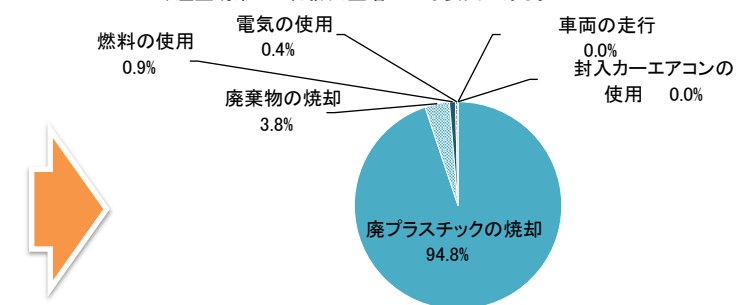
【基準年度に対する令和3年度の所見（エネルギー起源CO₂排出量）】

- ①基準年度（平成26年度）比56.9%の減、目標値比18%の減となった。
- ②水銀制御システムを平成30年度から本格稼働したことにより、排ガス中に含まれる水銀が規制値を超えた際に行う焼却炉の緊急停止がなくなり、焼却炉の立上げに使用する灯油使用量が大きく減少した（基準年度（平成26年度）と比較し灯油使用量が67%削減）。
- ③計画的な焼却炉の運転を行ったことにより、買電量が削減された（基準年度（平成26年度）比買電量23%削減）。

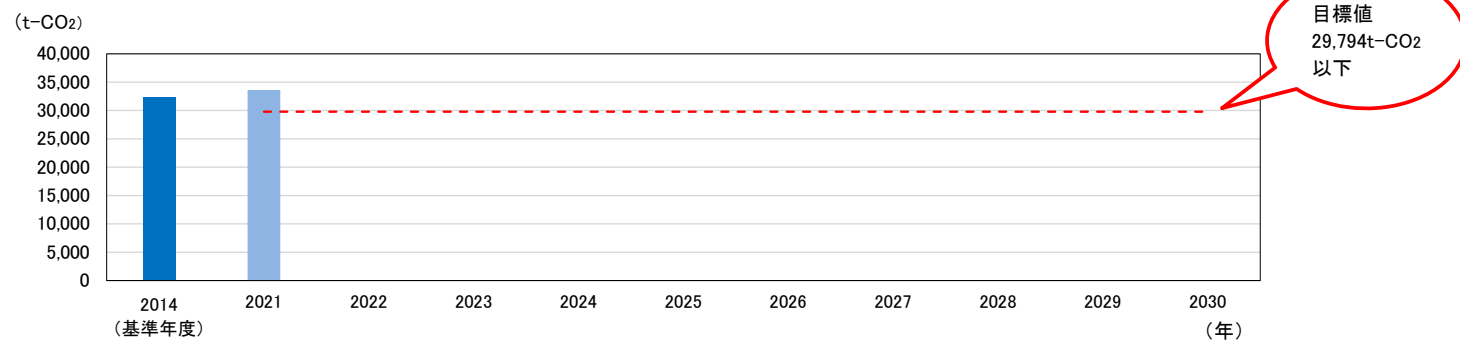


【基準年度に対する令和3年度の所見（温室効果ガス総排出量）】

- ①基準年度（平成26年度）比3.8%の増、前年度（令和2年度）比3.9%の増となった。
- ②令和3年度は小平・村山・大和衛生組合の広域支援による可燃ごみ(3,518t)の受入れに伴い、ごみ焼却量が増えたことが、温室効果ガス総排出量増の主な要因である。



経年グラフ（温室効果ガス総排出量・エネルギー起源二酸化炭素排出量）

[illegible][illegible]